

第3章 浜名湖圏域の現状と課題

分類	現状	課題
水質	■公共用水域における環境基準を満たしていない地点が見られる	浜名湖の適切な水質維持
	■地下水塩水化は改善傾向にあるが、一部解消されていない地点がある	地下水塩水化の状況監視
	●農業用水や浄水場に流入する河川水に混入する泥等が増加している	河川や用水路等の泥等の状況把握及び増加原因究明
水量	■天竜川水系、豊川水系における取水制限の影響を受ける	取水制限時の適正な水利調整
		浜名湖北部地域における代替水源確保
災害・治水	○気候変動に伴う豪雨の激甚化による水害等が発生している	流域治水の取組による水害等の被害の最小化
	■昭和49年七夕豪雨による大規模な水害を契機に、河川整備が進められている	県管理河川の整備率向上
	■圏域内で土砂災害が多く発生しており、土砂災害対策が進められている	土砂災害危険箇所の整備率向上
	○台風の大型化や南海トラフ地震など災害リスクが増大している	防潮堤や湖岸施設の整備、改修
	○豪雨時に大量の流草木が発生している	流草木の発生状況の把握及び発生時の連携
環境自然	○森林所有者による整備が困難なため荒廃した森林がある	森林の公益的機能の維持・増進
	■多様な地質や地理条件に応じた生態系が存在している	浜名湖等地域特有の生態系の保全、回復
暮らし	■多面的機能支払交付金活動の取組面積が大きい	農業・農村の有する多面的機能の発揮
	●水産資源の減少に伴い漁業経営に影響が生じている	水産資源の回復
	●浜名湖が県指定名勝に指定されている	県指定名勝浜名湖の保全

■浜名湖圏域において緊急性が高い項目※に関連する課題 ○全県で共通の課題 ●浜名湖圏域特有の課題

※県内の各圏域における流域の緊急性を評価した点数(令和5年度の策定順検討に用いたもの)が低い項目

第4章 浜名湖圏域の理念、目指すべき姿

- ・圏域における水循環の健全化を図るため、理念と3つの目指すべき姿を設定
- ・関係者全員が共通の認識として取り組む必要がある

いのちと恵みをはぐくむ「浜名湖」と生きる ～特色ある自然環境の保全と多様な産業の未来のために～

◆ 浜名湖を中心とした地域特有の自然環境の維持又は回復

水質 水量 自然環境

◆ 水災害（水害・土砂災害・濁水）に対するレジリエンスの向上

水量 災害・治水

◆ 多様な産業（農・林・水産・工・観光）と暮らしのバランスのとれた発展

水質 水量 暮らし

・ 浜名湖圏域における水循環に関する課題を踏まえて、分類ごとに目標を設定

水質	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浜名湖の適切な水質を維持する必要がある ・ 地下水塩水化の状況監視を継続する必要がある ・ 泥等の増加原因特定や混入による被害を把握する必要がある (留意点) 佐鳴湖等において、水質改善の努力がされ、改善傾向 水質と水産資源の両者の推移、他県の動向や国の水質改善の考え方を注視
	目標1	<p>適切な生活環境を保全し、かつ産業や自然環境に大きな影響を与えない、望ましい水質を維持する</p>

水量	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取水制限時の適正な水利調整が必要 ・ 浜名湖北部地域等における代替水源の確保が必要 (留意点) 地下水は、利用可能量に対して実績採取量が下回っている 天竜川水系、豊川水系における取水制限の影響を受ける
	目標2	<p>渇水や地下水障害の状況を把握、監視し、水の利用と保全のバランスを適正に保つ</p>

災害・治水	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 流域治水の取組による水害等の被害の最小化が必要 ・ 県管理河川の整備率向上が必要 ・ 土砂災害危険箇所の整備率向上が必要 ・ 流草木の発生状況の把握及び発生時の連携が必要 ・ 防潮堤や湖岸施設の整備、改修が必要 (留意点) 昭和49年七夕豪雨を契機に、河川整備が進められている 防潮堤や命山の整備、津波避難施設空白域の解消が進められている
	目標3	<p>洪水、土砂災害、高潮、津波等による災害の発生を防止し、被害軽減のための取組をあらゆる関係者が連携して推進する</p>

自然環境	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林の公益的機能の維持・増進することが必要 ・ 浜名湖等における圏域特有の生態系の保全、回復が必要 (留意点) 多様な地質や地理条件に応じた生態系が存在する 生物の繁殖場所や隠れ場所として重要な干潟やアマモ場が存在している
	目標4	<p>圏域固有の生態系をはぐくむ水環境を保全・再生・創出する</p>

- ・ 農業・農村の多面的機能を発揮する取組への支援が必要
 - ・ 森林の多面的機能を発揮する取組への支援が必要
 - ・ 水産資源の回復が必要
 - ・ 県指定名勝浜名湖の良好な景観の保全が必要
- (留意点) 入り組み変化に富んだ湖岸から湖面にかけての自然景観が評価されている
近年、食害等によりアサリの漁獲量が不安定

森・川・湖・海の恵みを活かし、豊かな暮らしと美しい景観を継承する

将来目指すべき健全な水循環の姿と目標の関係

- ・ 浜名湖圏域では5つの目標を達成することで、健全な水循環の姿を目指す
- ・ 健全な水循環の姿は複数の目標と関連しており、全体を見通した展開が必要

理念

いのちと恵みをはぐくむ「浜名湖」と生きる
～特色ある自然環境の保全と多様な産業の未来のために～

◆ 浜名湖を中心とした地域特有の自然環境の維持又は回復

水質 水量 自然環境

3つの目指すべき健全な水循環の姿

◆ 多様な産業（農・林・水産・工・観光）と暮らしのバランスのとれた発展

水質 水量 暮らし

◆ 水災害（水害・土砂災害・濁水）に対するレジリエンスの向上

水量 災害・治水

水質

適切な生活環境を保全し、かつ産業や自然環境に大きな影響を与えない、望ましい水質を維持する

水量

濁水や地下水障害の状況を把握、監視し、水の利用と保全のバランスを適正に保つ

災害・治水

洪水、土砂災害、高潮、津波等による災害の発生を防止し、被害軽減のための取組あらゆる関係者が連携して推進する

自然環境

圏域固有の生態系をはぐくむ水環境を保全・再生・創出する

暮らし

森・川・湖・海の恵みを活かし、豊かな暮らしと美しい景観を継承する

5つの目標

第6章 目標を達成するために実施する施策

- ・ 目指すべき姿、目標達成に向け、関連計画等での取組と連携して施策を講じる
- ・ 課題に対応する取組がない場合、関係機関と連携、協働する

目標	課題	No	施策	施策実施に関連する計画
水質(目標1)	適切な生活環境を保全し、かつ産業や自然環境に大きな影響を与えない、望ましい水質を維持する	1	河川、湖沼、海域における水質改善に関する施策や活動の継続	浜名湖流域別下水道整備総合計画等
		2	適切な汚水処理	
	3	地下水観測態勢の継続	第4次静岡県環境基本計画	
	4	河川や用水路等の泥等による被害状況把握	—	

目標	課題	No	施策	施策実施に関連する計画
水量(目標2)	取水制限時の適正な水利調整	5	水資源の確保に向けた水利関係者との適宜適切な調整	第4次静岡県環境基本計画
	浜名湖北部地域における代替水源確保	6	地下水取水基準の見直し	

目標	課題	No	施策	施策実施に関連する計画
災害・治水(目標3)	洪水、土砂災害、高潮、津波等による災害の発生を防止し、被害軽減のための取組をあらゆる関係者が連携して推進する	7	県管理河川の河川改修	都田川水系流域治水プロジェクト
		8	都田川ダムの治水活用	
		9	土地改良施設の耐震化や更新整備、保全を推進	美しいふじのくにインフラビジョン
		10	森林整備・治山事業による浸透能力向上	都田川水系河川整備計画
		11	土砂災害防止施設の整備の推進	
	12	防潮堤や湖岸施設の整備、改修	遠州灘沿岸海岸保全基本計画	
	13	流草木の発生状況の把握及び発生時の連携	—	

目標	課題	No	施策	施策実施に関連する計画
自然環境(目標4)	森林の公益的機能の維持・増進	14	森林の整備・保全	静岡県 森林共生基本計画
	圏域固有の生態系を はぐくむ水環境を 保全・再生・創出する	15	浜名湖における環境保全活動の促進	<改訂版> ふじのくに生物 多様性地域戦略
		16	干潟・アマモ場等の保全	

目標	課題	No	施策	施策実施に関連する計画
暮らし(目標5)	農業・農村の有する 多面的機能の発揮	17	地域ぐるみの活動による農地の 多面的機能の維持・発揮	静岡県農業農村 整備みらいプラン
	森・川・湖・海の恵みを 活かし、豊かな暮らしと 美しい景観を継承する	18	森林資源の循環利用の促進	静岡県 森林共生基本計画
	水産資源の回復	19	アサリ資源の保全と漁獲する 漁業者の取組支援	静岡県 水産振興基本計画
	県指定名勝浜名湖の保全	20	県指定名勝である浜名湖の 適切な保存と活用に係る調整	浜松市文化財保存 活用地域計画等

施策の体系と主な実施地域

理念	目指すべき姿	目標	No	施策	主な実施地域				
					山間地域	農村地域	都市地域	湖沼・海域	
特色ある自然環境の保全と多様な産業の未来のために いのちと恵みをはぐくむ「浜名湖」と生きる	自然環境を中心とした地域特有の 維持又は回復	目標1	1	河川、湖沼、海域における水質改善に関する施策や活動の継続	○	○	○	○	
			2	適切な汚水処理		○	○		
			3	地下水観測態勢の継続		○	○		
			4	河川や用水路等の泥等による被害状況把握		○	○		
		目標2	5	水資源の確保に向けた利害関係者との適宜適切な調整		○	○		
			6	地下水取水基準の見直し		○	○		
		目標4	14	森林の整備・保全	○			○	
			15	浜名湖における環境保全活動の促進		○	○	○	
			16	干潟・アマモ場等の保全				○	
		目標5	17	地域ぐるみの活動による農地の多面的機能の維持・発揮		○			
			18	森林資源の循環利用の促進	○				
			19	アサリ資源の保全と漁獲する漁業者の取組支援				○	
			20	県指定名勝である浜名湖の適切な保存と活用に係る調整				○	
		対するレジリエンスの向上 (水災害・土砂災害・濁水)	目標2	-	5~6に同じ				
				7	県管理河川の河川改修	○	○	○	
			目標3	8	都田川ダムの治水活用		○	○	
	9			土地改良施設の耐震化や更新整備、保全を推進		○			
	10			森林整備・治山事業による浸透能力向上	○				
	11			土砂災害防止施設の整備の推進	○				
	12			湖岸施設及び海岸保全施設の整備の推進				○	
13	河川、海岸への流草木の流入を未然に防ぎ、発生した場合は連携して対応する						○		

指標の種類と設定の考え方

- ・ 計画の確実な推進のために、指標を設定して進捗状況を管理
- ・ 目標の達成状況に対して「健全な水循環の状態を表す指標」を設定
- ・ 施策の進捗状況に対して「施策の進捗状況を管理する指標」を設定
- ・ 各指標には目標値を設定し、目標の達成状況や施策の進捗状況を管理する
- ・ 目標値は、関係する各計画の変更に伴い適宜見直す

健全な水循環の状態を表す指標

□ 目指すべき健全な水循環の姿に到達するために設定した、「5つの目標」の達成状況を評価するための指標

- ・ 様々な取組を実施した結果を表し、目標値を設けることが可能な指標
- ・ 目標値は、関連計画と調整、整合させて設定
- ・ 把握・評価には、指標のモニタリングが必要
例：水質環境基準(COD等)の達成率、水害・土砂災害による死者数 等

施策の進捗状況を管理する指標

□ 目標を達成するために必要な「施策」の実施状況を把握、管理するための指標

- ・ 目標値は、関係者が実施する施策の実施量で設定
- ・ 例：汚水処理人口普及率、森林整備面積、参加者数 等

目標値設定の考え方

12

- ・ 圏域内の目標値が設定されているものは、その目標値を採用する
- ・ 圏域に類する範囲で目標値が設定されているものは、その目標値を採用する
- ・ 県全体の目標値が設定されており、圏域別の目標値の設定が難しいものは、県全体の目標値を達成するために、圏域内で維持又は向上を図る

種類	指標の例	目標値の例
圏域内の目標値が設定可能	浜名湖の水質環境基準達成	水質基準達成100%
圏域に類する範囲で目標値が設定可能	地下水適正揚水量の確保 <small>※西遠地域は浜名湖圏域外(天竜川流域)を含む</small>	西遠地域 143千m ³ /日以下 浜名湖西岸地域 17千m ³ /日以下
県全体の目標値が設定されている	土砂災害防止施設整備箇所	1,979箇所(県全体) ⇒圏域内では維持・向上を目指す

指標管理と計画期間の取扱い

- ・ **計画期間は10年**とし、**5年後に中間評価を実施し目標値の再設定を行う**
⇒当該時点での水循環を取り巻く状況を踏まえ、指標や目標値を再検討
- ・ 目標達成年度は、各計画と整合を取り、各計画で定める達成年度を準用する
- ・ 指標は、原則として毎年度確認する

◆ 浜名湖を中心とした地域特有の
自然環境の維持又は回復

健全な水循環の状態を表す指標

施策の進捗状況を管理する指標

水質(目標1)	適切な生活環境を保全し、かつ産業や自然環境に大きな影響を与えない、望ましい水質を維持する			1 河川、湖沼、海域における水質改善に関する施策や活動の継続 2 適切な汚水処理 3 地下水観測態勢の継続 4 河川や用水路等の泥等による被害状況把握		
	指標 ・浜名湖の水質環境基準※達成	目標値 100% (8地点)	目標年度 毎年度	指標 ・浜名湖環境保全活動参加者数 ・地下水取水基準の見直し	目標値 20,000人/年 西遠地域で完了	目標年度 R9年度 R10年度
水量(目標2)	渇水や地下水障害の状況を把握、監視し、水の利用と保全のバランスを適正に保つ			5 水資源の確保に向けた利害関係者との適宜適切な調整 6 地下水取水基準の見直し		
	指標 ・地下水適正揚水量の確保	目標値 実績採取量 ○西遠 143千m ³ /日以下 ○浜名湖西岸 17千m ³ /日以下	目標年度 毎年度 毎年度	指標 ・地下水取水基準の見直し	目標値 西遠地域で完了	目標年度 R10年度
自然環境(目標4)	圏域固有の生態系をはぐくむ水環境を保全・再生・創出する			14 森林の整備・保全 15 浜名湖における環境保全活動の促進 16 干潟・アマモ場等の保全		
	指標 ・保護地域及び自然共生サイトの面積	目標値 53,700ha (浜松市)	目標年度 R15年度	指標 ・浜名湖環境保全活動参加者数 ・森林の多面的機能を持続的に発揮させる森林整備面積	目標値 20,000人/年 11,490ha (県全体)	目標年度 R9年度 R7年度

※ 目標値はCOD（海域）とする。BOD（河川）は現状で基準を達成しているため、引続き監視する。

◆ 多様な産業（農・林・水産・工・観光）と
暮らしのバランスのとれた発展

健全な水循環の状態を表す指標

施策の進捗状況を管理する指標

水質(目標1)	適切な生活環境を保全し、かつ産業や自然環境に大きな影響を与えない、望ましい水質を維持する			1 河川、湖沼、海域における水質改善に関する施策や活動の継続 2 適切な汚水処理 3 地下水観測態勢の継続 4 河川や用水路等の泥等による被害状況把握		
	指標 ・浜名湖の水質環境基準※達成	目標値 100% (8地点)	目標年度 毎年度	指標 ・浜名湖環境保全活動参加者数 ・地下水取水基準の見直し	目標値 20,000人/年 西遠地域で完了	目標年度 R9年度 R10年度
水量(目標2)	渇水や地下水障害の状況を把握、監視し、水の利用と保全のバランスを適正に保つ			5 水資源の確保に向けた利害関係者との適宜適切な調整 6 地下水取水基準の見直し		
	指標 ・地下水適正揚水量の確保	目標値 実績採取量 ○西遠 143千m ³ /日以下 ○浜名湖西岸 17千m ³ /日以下	目標年度 毎年度 毎年度	指標 ・地下水取水基準の見直し	目標値 西遠地域で完了	目標年度 R10年度
暮らし(目標5)	森・川・湖・海の恵みを活かし、豊かな暮らしと美しい景観を継承する			17 地域ぐるみの活動による農地の多面的機能の維持・発揮 18 森林資源の循環利用の促進 19 アサリ資源の保全と漁獲する漁業者の取組支援 20 県指定名勝である浜名湖の適切な保存と活用に係る調整		
	指標 ・基幹農業水利施設の更新整備数 ・森林の多面的機能を持続的に発揮させる森林整備面積	目標値 82施設 (県全体) 11,490ha (県全体)	目標年度 R7年度 R7年度	指標 ・多面的機能支払交付金の活動面積 ・森林経営計画認定面積	目標値 維持又は向上 100,000ha (県全体)	目標年度 R10年度 R7年度

※ 目標値はCOD（海域）とする。BOD（河川）は現状で基準を達成しているため、引続き監視する。

健全な水循環の状態を表す指標

施策の進捗状況を管理する指標

◆ 水災害（水害・土砂災害・渇水）
に対するレジリエンスの向上

健全な水循環の状態を表す指標			施策の進捗状況を管理する指標			
水量(目標2)	渇水や地下水障害の状況を把握、監視し、水の利用と保全のバランスを適正に保つ 指標 ・地下水適正揚水量の確保	目標値 実績採取量 ○西遠 143千m ³ /日以下 ○浜名湖西岸 17千m ³ /日以下	目標年度 毎年度 毎年度	5 水資源の確保に向けた利水関係者との適宜適切な調整 6 地下水取水基準の見直し 指標 ・地下水取水基準の見直し	目標値 西遠地域で完了	目標年度 R10年度
	洪水、土砂災害、高潮、津波等による災害の発生を防止し、被害軽減のための取組をあらゆる関係者が連携して推進する 指標 ・水害及び土砂災害による死者数	目標値 0人	目標年度 毎年度	7 県管理河川の河川改修 8 都田川ダムの治水活用 9 土地改良施設の耐震化や更新整備、保全を推進 10 森林整備・治山事業による浸透能力向上 11 土砂災害防止施設の整備の推進 12 湖岸施設及び海岸保全施設の整備の推進 13 河川、海岸への流草木の流入を未然に防ぎ、発生した場合は連携して対応する 指標 ・県管理河川の整備延長 ・基幹農業水利施設の更新整備数 ・土砂災害防止施設整備箇所	目標値 4.3km (都田川水系) 82施設 (県全体) 1,979箇所 (県全体)	目標年度 R10年度 R7年度 R7年度

浜名湖圏域の指標の設定手順

- ・ 浜名湖圏域の目標や施策に応じて、昨年度までに整理した緊急性評価指標一覧を出発点として、手順①～④により、計画における適用性を確認して設定
- ・ 適用性：課題との対応有無、目標値設定の可否、代替が可能な指標の有無

手順① 浜名湖圏域の目標・施策に対応する指標を令和5年度の緊急性評価指標一覧に掲げる指標の中から選択する

対応する指標あり

対応する指標なし

手順② 各計画等における目標値の有無を確認する

目標値なし

目標値あり

手順③ 代替が可能な指標の有無を確認する

あり

なし

原則採用

代替指標を原則採用

手順④ 流域水循環協議会で確認し最終決定